

地域で取り組むアカミミガメ防除～東播磨の場合～

和亀保護の会 西堀智子

和亀保護の会では東播磨のため池で地域の人々と共にアカミミガメ防除を行っている。アカミミガメ問題解決のためには、法律の整備や調査研究もちろん必要であるが、最も重要なことは「地域主体で防除を継続できる体制を作り、長期に取り組むこと」である。

アカミミガメに限らず、外来種の防除は困難でゴールが見えにくい。防除活動をいかに長く続け、一定の成果をあげられるか、2006年から10年経過した活動の一部を紹介する。

私たちが考える《防除活動4箇条》

- お金がかからないこと→予算があるのははじめだけ。アカミミガメ問題解決のゴールは遠い。予算は将来を見据えて賢く使い、その後は低予算で済むように防除の道筋を整える。
- シンドくないこと→志が高くても、ハードな作業は続かない。実際に防除活動を担うのは仕事をリタイヤした年配者に頼ることが多い。年配者でも楽に行なえるよう配慮する。
- 得になること→外来種防除を商売にしようとするれば無理が出る。とはいえ何かご褒美があれば防除のテンションは上がる。「地域のため」という意味での「得」なら工夫次第。
- 楽しいこと→長く続けるとマンネリ化しがちになる。また外来種とはいえ命を奪う作業には後ろめたさも伴う。そこをどう解決するかが長く続ける秘訣。

⇒地域で自立して、捕獲から死体の処理、担い手の人材育成までをトータルに行なう！



日光浴罟作成、楽に捕獲



コンセンサスの得られる殺処分



アカミミガメ堆肥づくり



堆肥で地域に飾る花作り



アカミミガメ料理で啓発



賞品争奪カメ捕り大会

アカミミガメ以外の外来種防除も同時に行えば効果的。また「地域づくり」の視点を持つことで防除の意味も深まり、長期的な活動が可能となる。